

WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION of JAPAN and TAIWAN

日台稲門会 会報 第12号



発行所：日台稲門会事務局
神奈川県茅ヶ崎市南湖5-15-5(小野間方)
TEL・FAX0467(83)2611
編集委員会
発行人：石川 公弘
編集責任者：齋藤 晃

NHKの偏向番組を叱る

日台稲門会会長 石川 公弘

NHKは、近代日本を全面的に否定する番組を放送しようとしている。その第一回、日本による五〇年の台湾統治が放送された。出発点を悪しきものにしていないと、この種の「反日」番組は成立しないので、放送は台湾人による悪口の羅列が始まった。私も個々の発言はおおむね事実と思う。だが、悪しき事実のみを集め、善なる部分を完全にネグった歴史は、事実でなく捏造だ。問題は、こうした偏向報道を真実と信じてしまう人がいることである。

若い頃の元台湾少年工・松尾造一さん(日本名)もその一人だった。敗戦でほとんどの少年工は、父母の待つ郷里へと帰ったが、日本に残った者も若干いた。松尾さんも勉強を続けようとしていた。当時、台湾からの情報は悪いものばかり。一方、建国した中華人民共和国には讃辞ばかりが寄せられていた。松尾さんは、待ち受ける過酷な運命を知る術もなく1953年、大陸へ渡り、北京大学で2年間、共産党の民族教育を一方的に詰め込まれた。

来るべきところでなかった。後続の帰還計画を止めねばならない。だが動き出した計画は十一回まで続いた。中国からどう脱出するかが次の問題だった。一九五四年十一月、片山哲元総理を団長とする憲法擁護国民連合会が訪中した。松尾さんは元総理に窮状を訴え、日本へ連れ帰ってくれと懇

願したが、希望は叶えられなかった。公安は騒ぎを起こした者たちを一斉に逮捕し、松尾さんは黒竜江省とソ連の国境にある興凱湖労働キャンプへ送られた。

長い収容所生活の始まりである。百家争鳴で粛清対象となった右派グループ百四十五名と一緒だった。沼地の水を抜き、畑にする作業だった。それは一枚岩だった中ソが分裂するまで続いた。中ソが分裂すると、右派分子を国境近くへ置くのは不都合なのか、今度は北京の良郷収容所の特務(スパイ)棟へ入れられた。そこで未曾有の飢饉を経験するが、池の蛙を食べ生き延びた。すでに刑期は完了したが、労働キャンプからは釈放されなかった。

そこに発生したのが、文化大革命だった。毛沢東は道理を知らぬ少年たちに、「造反有理」という免罪符を与え、中国を大混乱の渦に巻き込んだ。紅衛兵たちは、「敵」を求めて暴れ回り、毛への忠誠を競いあつた。収容所にも荒波が押し寄せてきた。一九六八年、松尾さんたちは突然、新疆ウイグル地区へ移動させられる。実権派の力を削ぐのが目的だった。新疆生産建設兵団・農業建設第三師・五十二団が、新しく労働キャンプだった。

タクラマカン砂漠に用水路を建設するのが仕事で、住居は砂漠の下の横穴、食事も格段と粗末になった。多くの者が脱走した。松尾さんの脱走は、文革が終息期に入った十一回目か最後だった。列車が新疆ウイグル地区へ入る直前、松尾さんは飛び降りた。続いて飛び降りた公安が足を折り、復活していた裁判制度の下で、懲役五年を言い渡された。両手を梁につるされ、太い棒で手首を殴る拷問はきつい。五年間、指に神経が通わなかった。

野坂参三と共に中国へ逃亡した甲府の共産党員が同じ獄にいて、中国などに夢を求めた身の不運を慰め合った。厳しい生活は、鄧小平が中国の実権を握るまで続いた。ある日、松尾さんは呼び出しを受ける。緊張して出頭すると、新疆大学で日本語の教師をしるという予想もしない話だった。その後松尾さんは、日本訪問のチャンスを探り、中国から脱出することができた。今は平穩に暮らしているが、偏った情報の怖さが身に浸みついたという。

私はNHKの番組の中で「悪口を言わされている」柯徳三さんにお目にかかったことがある。月に一回日本語を学ぶ友愛の会のリーダーの一人で、「母国は日本、祖国は台湾」という著書もある台湾最高の文化人だ。その著書のカバーには次の言葉がある。

「私は日本教育を受けて、日本式の考え方しか出来ません。軍国教育が良かったなどというつもりはありませんが、戦前の日本教育には素晴らしい面がたくさんありました。それを全部否定してしまっている戦後日本は、何かおかしいと思うのです」。

おそらく柯徳三さんは、日本の台湾統治の全体像をバランスよく述べたのだろう。しかし、それを聞いたNHKのプロジャーナラーはその真意を読めなかったか、自分が描く「反日番組」の枠組みに都合のよいところしか聴きとらなかった。そして、柯徳三さんが指摘する「おかしな戦後日本」の典型のような番組を、「公共放送」の名で全国に流したのである。

母校講師として活躍されている岩永幹事が学生を引率し、李登輝元総統の講話を拝聴されました

李登輝元総統三時間面談

「台湾講座」学生 台湾研修

岩永 康久

(昭和四四年・政経卒)

昨年後期授業より母校早稲田にてゼミ形式の授業を始めた。オープン教育などで全学部、全学年が対象。初めての演習講座で何人の生徒が受講希望するの不安があった。蓋を開けて見ると、三十六名の希望があり、二十四名のクラスを編成した。議論を交えて双方向の授業を心がけたが、ビジネス経験者の話という事で学生には好評だったようだ(今年前期講座は百八名の受講希望あり)。授業が終わってから、二月に台湾研修に興味があるか打診した。多くの学生が興味を示し、就職戦線厳しき中、残念にも参加出来ない者もいたが、十三名が参加する事になった。彼らの希望は「①李登輝元総統との面談、②台湾大学生との討論会・親睦会、③企業訪問」等多岐に亘った。二月十七日より四泊五日にて出かけ、以下の通り過密スケジュールをこなした(到着・帰国日は省略)。

十八日：総統府・二二八記念館(二二八事件にて兄を亡くされた蕭錦文氏が

全行程懇切に説明)

一五:〇〇〜一八:〇〇：李登輝元総統

十九日：Winbond(台中科学園区DRAMメーカー)、台中日本人学校、台湾車輛(新豊)、台湾大学(二六:〇〇から深夜まで)

二〇日：台湾住友商事、蔡焜燦氏(日本精神の著作でも有名懇談・昼食会、台北稲門会夕食会)

小生講座では期末試験は行わず、レポート提出とした。李登輝元総統はこのレポートにも興味を示され事前に送付した。当初面談は一時間の予定だったが、李元総統自身も興味を示され、講演に加え学生のレポートに対するコメント+質疑応答となり三時間にも及んだ。李元総統の奥深い内容の話は学生にとっても強烈な印象になった由。李元総統より送られた言葉は「我是不是我」。

台湾大学生との討論会も三時間、主題の一つに話題の映画「海角七号」を選び、その後深夜までの親睦会となった。双方からかかる交流を一時的なものではなく長く、続けて行こうとの話になり、離台の日には三人の台湾大学生がホテルまで見送りに来てくれたのは嬉しかった。最後の夜は台北稲門会の皆さんが夕食会に招待頂き、先輩諸氏・台湾留学生との話も盛り上がり、学生にとっては台湾に対する愛着を感じる研修旅行になったようでした。



台湾にワセタ魂を広めるため日夜努力されている早稲田大学台北国際交流センター岡本主任からのお便りです。

「早稲田大学は頭コンクリート?」

早稲田大学台北国際交流センター主任 岡本 宏一

祝 早稲田大学校友会日台稲門会 会報第12号 発刊

中華民國 台北駐日經濟文化代表處 代表 馮 寄 台

東京都港区白金台5-20-2 電話 03(3280)7811

「台湾での活動を中心に！」という本稿の執筆依頼をいただいた際、年報のようにスマートなものよりも日頃のドタバタを含んだ内容の方が良いのではないかと考え、タイトルも敢えて柔らかくしてみました。

事務所の活動目的は、共同研究の推進、共同教育の実施、日台双方方向の留学促進などを支援することです。共同研究や共同教育は、主に大学院同士や学部間で行っており、日本からの要請に応じて必要なサポートをしています。

いま、仕事の中心となっているのは留学促進のための受験に関する業務です。別科日本語専修から始まって、国際教養学部、理工学部、ビジネススクール、アジア太平洋研究科など、願書の書き方や推薦人の選び方、受験資格の確認、台湾人受験生の合格率、四月入学と九月入学ではどっちの入試が受かりやすいか、はたまた不合格だった親子からの相談など、ありとあらゆる電話や来所があります。

台湾では「大学学科能力測驗」の得点により進学したい大学が選べますから、早稲田大学の受験方法との違いを説明して理解していただくにも苦労します。日本では当たり前のように思われ、制度上仕方ない受験方法やカリキュラムの選択方法であっても、台湾の方にとっては、融通のきかない頭の固いものと感じられるようで、事務所の小姐からも時々「早稲田大学は頭コンクリッだと

受験生増えませんね」と釘を刺されま

す。
考えてみれば、世界中のニーズに柔軟に対応して発展しているのが台湾産業でしょうから、現地のニーズをしっかり把握して、変えるべき点は変えないと事務所の存在価値も半減し、大学も発展しないと思います。「大学学科能力測驗」の結果が二月十九日に発表され、台湾の各大学とも優秀な学生獲得のために好条件の奨学金の告知をしています。早稲田大学が台湾で必要なことは、柔軟な対応と、奨学金基金云をつくること。そのため何をするべきか、深く考え素早く行動する日々が続きます。

(2009. 2. 27 記)



台北稲門会の重鎮、長田さんからお便りを頂きました。訪台の折には日台稲門会が「迷惑、いやお世話になっております。」

「オススメの観光」

台北稲門会 長田

「台湾でオススメの観光は？」と聞かれると、最近では「台湾新幹線」と答えることにしています。あの「台湾高速鉄道」です。少し的外した答えなので、質問した方はピンとこない顔をされます。

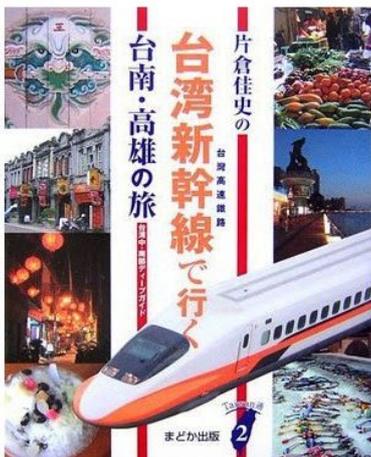
約二〇年前に卒業旅行と洒落込んでアメリカ旅行をした時、街中に走る日本車を見つけては感動したことを覚えています。当時の台湾は知りませんが、今台北は日本車に溢れており、同じ気持ちにはなりません。しかし、台湾新幹線はその時の感動を思い出させてくれますし、日本の誇る技術という点で勝るものがあります。

一九九九年四月嘉義にて着工した台湾新幹線は、当初二〇〇五年一〇月の開業予定でしたが、日欧の混合システムによる混乱や工事トラブルにより、正式運行は二〇〇七年三月となりました。その間多くの日本人が台湾に滞在し、歓楽街は大変賑わっていました。母校先輩にお会いし意気投合することもあり、苦労話な

どもお聞きしましたが、みなさん大変いきいきとお話されていたことを思い出します。みなさんお元気でしょうか？開通から二年、大きなトラブルもなく新幹線はしっかりとこの地に根付きましたよ。

さて話を元に戻し、オススメの観光を紹介します。台北駅を除き新幹線専用建設された駅には、いずれもレンタカーの窓口があります。そう、新幹線とレンタカーの合わせ技で自由な旅を楽しむのです。車の運転も心配することはありません。日台相互で観光客が運転できる制度も整備されていますし、台北を離れた郷下の交通はゆったりとしています。

台北から新幹線に飛び乗り、日本の技術と車窓の景色を楽しみながら大きく南へ移動したあと、車でのんびりとドライブ。窓を全快で深呼吸するもよし、行列のある食堂で腹ごしらえするもよし、気分に合わせて等身大の台湾を感じることが出来ます。さらに、片倉さんの台湾ガイドブックを小脇にかかえれば、この旅行プランは最強となります。



新幹事に就任予定の奥石さん、初めての投稿です。これからも日台稲門会発展にご協力願います。先ずは挨拶代わりに。

独りよがりの台湾雑感

奥石 邦豊

(昭和四四年・政経卒)

二〇〇八年五月末六三歳で東レ(株)退社に合わせ離台した。諸事情あつて二年限定の台湾駐在であつた。事務所は設立時以来新光人壽ビル(南京東路と松江路交差点)の六階にあり、同年七月から直下の五階に早稲田大学台北国際交流センターが開設された(新光Gは台湾屈指のコングロマリットの一つであり、生命保険・不動産部門董事長の呉東進氏が校友であることから格別のご協力をいただけたという経緯がある)。ビルが同じという縁に加え台北稲門会の長田氏からのお勧めもあつて当会に入会した次第。

台湾に赴任して初めて早稲田、慶応の影響力の大きさを知った。中学時代に恩師が『国立大学より私大に行け、卒業生の数が違う、ということは人生の深さが変わってくる』と忠告してくれたことを思い出した(当時私は極貧だったから、授業料のことはばかり考えていた)。特にアジアにおける早稲田のリーダーシップ、進取の精神(その一端が台北国際交流センター開設)は注目されていることでも

あり、今後は会の活動を通じ、台湾人留学生のお役に立ちたいと念じている。

海外は長い台湾は初で、しかも駐在二年というのは異例に短く、得た知見は極めて浅薄に過ぎないが今回寄稿するにあたり、ややシニカルに振り返ってみた。

1、台湾は寒い！

着任してすぐ感じた事は「何故こんなに冷房するのか？」ホテル、中長距離バスしかり。陳経済部長にも「クールビズ徹底すべき」と進言したが、ご理解はいたたくも実施されなかった。省エネの観点から甚だしく勿体無い。エコ関連で言えば台北の空気の汚れと高湿度が悪さして私は咳き込みがひどく、定期的に台安病院で治療をうけた。その時ひらめいたのだが自宅の除湿機に一日でタンク満杯の水が貯まる。あれを回収できたら水不足対策として面白い。

また台湾では料理の塩分不足で日本人駐在員は風邪をひきやすい。同時に化学調味料漬けなのでこの対処も健康管理の大切なノウハウである。

2、もつと工夫できないの！

名古屋菜には数多くあつた。そこへ行くくと仕事に役立つ店が・・・(ふだん口を訊けない様な政財界の大物や成功者を

紹介してくれる店。ところが林森北路にはそんな理想的な店は言うに及ばず、胸をときめかすホステスとして少なく、さりとて目茶安いという店もない。どこも似たり寄ったりで特色・アイデンティティに乏しい。手本となる店は皆無ではなかったが期待に違わず繁盛。ママが経営者として尊敬できる力量を有し、その努力も尽くしていた。従業員も(空気が読める的に)頭が良く、そうでない娘は自然落伍していった。



有名ゴルフ場といえどもキャディがひどい。売店があつても次のティーグラウンドへさつさと行っちゃやうからプレーヤーはカートに入れた精算カードを取りに走る事になる。売店の前で待つか、カードを先に渡す様に叱つたが励行されたこととはない。キャディ投票なんかもあるが、優秀者は一定していてその他の面々は「優れた人から学ぼう」という意欲はうすい。

コースメンテナンスなんかももつと改善できる筈だ。メンバーには台湾人金持ちが多いのに、自己利益につながる事にはケチである。

日本と台湾の懸け橋を目指す

石川台湾問題研究所

代表 石川 公弘 (昭和34年商研卒)

〒242-0029 大和市上草柳6-12-13

Tel 046-261-1838 Fax 046-208-2012

Yahoo! ブログ - 台湾春秋 発信中

<http://blogs.yahoo.co.jp/kim123hiro/MYBLOG/yblog.html>

日本李登輝友の会神奈川県支部長

高座日台交流の会事務局長

早大日台稲門会会長

今男女共に韓国のプロゴルフアーが世界で活躍している。台湾男女もかつては日本で大活躍したのだ。精々雅妮會選手(アメリカ女子ツアーで活躍中)くらい。何故か?企業スポンサーがつかないからだ。世界に名だたる台湾企業も多いのだから、もっとサポートしたらいいの。おしなべて台湾金持ちは noble esse obligige の意識が低いと決めたら言い過ぎだろうか。

3、大切にすべきこと

①イーグル会とは淡水ゴルフクラブの台湾人メンバー会で実業界の重鎮が多い。年二回日本商工会との定例会がある。(ゴルフと表彰式を兼ねた懇親会、参加者彼我各三〇名強、平均年齢約六五) こう言う交流こそ積極的に参加して絆を深耕すべき。

②ゴルフでもう一つは年二回の早慶戦、特に双方共台湾人校友に好漢多く、末永く継続が望まれる。

③正月の高速道路大渋滞対策としてのカーシェアリングと無料化。日本も真似たら良い。要は行政のやる気。

④墓参りの伝統。一族郎党集って先祖詣でする姿には胸をうたれる。

⑤加えて家族団欒重視(特に親子関係の緊密度)も日本比はるかに良好。

⑥学校グラウンドの一般開放も有難い。小生が日課の早朝散歩に利用したのは近所の中学校、アンツーカー四百mの正規グラウンドで常連はおじん、おぼん達。日教組はおかしいんじゃないか。

⑦さらには三軍病院での3T健康診断も是非受診される事をお勧めする(設備抜群、費用日本の三分の一)。等等……

4、「志」が低くないですか?

陳水扁には失望した。考えるのは「我が身」ばかり。馬英九も軸ブレひどし。真に国家、国民に思いを馳せている政治家が少な過ぎる。骨太は李登輝のみ。吉田茂が懐かしいどこかの国と近似。実業界しかり。どうも前述した様に高い「公」の精神を持った指導者が少ない。一方一般国民はそれでも逞しく生きています。実に国民の楽天主義とヴァイタリティーがこの国を支えている。

5、どう考えても理不尽

あれだけ名実共に充実していながらどうして独立国扱いされない? 僅か二三ヶ国だけが国交を有しているのか? 中国は何故あんなに傍若無人なのか? 理不尽だらけだ。

6、心残り

日経新聞は購読していたのに、北方謙三著「望郷の道」(朝刊連載、主人公森平太郎新高製菓創業者)は読んでいなかった。駐在中に気付いておれば登場舞台を採訪できたのにと悔やまれてならない。

以上

御祝 早稲田大学校友会日台稲門会 会報第12号 発刊

台湾

萬國法律事務所

FORMOSA TRANSNATIONAL

Attorney at Law

創所暨主持律師 陳 傳 岳

Founder & Senior Partner John C. Chen

台湾台北市106仁愛路三段136号15階

15F, Lotus Bldg., 136 Jen Ai Rd., Sec. 3, Taipei 106, Taiwan

Tel: 886-2-2708-9883

Fax: 886-2-2755-6486

E-mail: john.chen@taiwanlaw.com

Website: www.taiwanlaw.com

平成の卒業生も徐々に増えております。台湾の新世代とのリレーションシップを築いてくれることを、心より期待しています。

おお台湾、第二の故郷

嶋田 浩一(平成二年・教育卒)

皆様初めまして。今年の一月に日台稲門会に新しく入会させていただきました嶋田浩一と申します。

この度は、会報への寄稿という機会を頂きありがとうございます。過去の会報を拝見しますと皆様素晴らしい内容の投稿ばかりで、私のような若輩者がつたない文章を投稿して果たして良いものだろうかと随分悩んだのですが、折角頂いたチャンスですので紙面をお借りして簡単な自己紹介(のようなもの)をさせていただきます。

私が初めて台湾に行ったのは一九九六年の暮れ。勿論、仕事での訪台でした。それから一九九九年夏までの足かけ三年駐在いたしました。

その時に出会い交際するようになった女性が、今の妻でございます。

ここからいささか、書いている私ですら照れくさい話になってしまうのですが、新人の独り言とお許し下さい。

妻との出会いは、同じ会社に勤めていた「通訳の子の友達」として紹介されてからでした。

彼女は全く日本語が話せない。また当時は私もほとんど北京語が出来ない。デートも通訳の子を交えた三人からのスタートでした。そのうち身勝手なもので、通訳の子がどうにもこうにも邪魔に思えてきて(全く勝手だと思えます。最初はいやがる所を頼み込んで同席して貰ったのに...)、二人だけでノートとペンの筆談での会話を何となく楽しめるようになってきました。

そんなこんな甘い時もあったという間に過ぎ、一年の遠距離交際も何とか乗り切り、二〇〇〇年一月に無事結婚となりました。

式は台湾で挙げました。

彼女の実家は台中の山奥で「和平郷博愛村」と言い(ステッカーでも作ったら、買いた手が殺到しそうな名前ですよ)、日本語のとても上手な牧師さんのいる教会で挙げました。

回りを見渡しても半分くらいの方は日本語が堪能です。

今でも帰省(かな?)すると、あちこちから日本語で話しかけられます。

去年の九月に次男を授かり、益々自分と台湾との関係を意識するようになってきた時、貴会への入会を決めました。

息子二人は日本と台湾の二つの国籍を持ちます。次男(台湾で出生)に至っては更に名前も二つです。

家庭の中は、いつも二つの故郷の話でいっぱいです。

私にとっても、もう台湾は第二の故郷

です。

台湾でいっぱいの私たち家族(いやいや、さらに台湾の親類も加わってかなり大勢ですよ)は、これまた台湾でいっぱいの「日台稲門会」へ入会できたことを心から喜んでおります。

まだ入会して日も浅くどなたにもお目にかかつてはおりませんが、いづれ何かの催しで皆様にお会いできる日を楽しみにしております。



母の祖国・台湾での体験

河合 洋(平成一〇年・政経卒)

私は、生まれも育ちも日本でありますが、母が台湾人であることから幼少の頃から台湾に親しむ環境にありました。

私の母は、太平洋沿岸の街・宜蘭に生まれ、貿易の仕事をしていた祖父の転勤で小学生の時に日本に渡りました。母は、北京語、台湾語、日本語と三カ国語が話せますが、私と話すときはいつも日本語。祖父・祖母も共に戦前の日本教育を受けているのでやはり私との会話は日本語でした。そのため、幼少期はあまり「台湾」ということを意識することなく育ちました。

慶祝 日台稲門会第12号会報発刊

電線の最高接続法
“エキゾウェルト”
(テルミット溶接)

応用分野

- 接地電線
- 大電流母線
- レールボンド
(JR東日本採用中)

集集電工業股份有限公司

董事長 簡 燦 雲
(昭和20年 理工学部電気卒)

台湾 台北市大安區師大路93巷18號1F

TEL : 886-2-2364-2200

FAX : 886-2-2364-2929

統一編號 : 09411969

そんな私が初めて自分の中で母の祖国・台湾を強く意識するようになったのは、初めて台湾を訪問した一八歳のときでした。台湾では多くの親戚から大歓迎を受けましたが、日本の海の外で言葉のほとんど通じない、しかし間違いなく私と同じ血が流れている親戚の人々との交流は、自分の中の漢民族としての意識をいやが上にも自覚させることになりました。

そんな初めての台湾訪問の中でも私に強烈な印象を与えてくれたのが、私の又従兄弟にあたる青年でした。当時、彼は国立台湾大学医学部の学生で、「そんな天才少年と話が合うかなあ」と私も彼と会うまでは少し不安がありました。しかし、安室奈美恵の大ファンだった彼は、私に会うなり「自分が如何に日本の芸能人が大好きか」自分がいかに日本が好きで、憧れているか」を夢中で猛烈な勢いの英語で私に語りかけたのです。彼のエネルギッシュなトークに圧倒されながらも強く感じたことが、

- ・母の祖国・台湾の人々が日本を心から愛してくれていることへの感激
- ・国際平和を構築する上でのエンターテインメントが果たす大きなパワー

の二つでした。

早稲田を卒業後、私は六年間東急電鉄にて主にリゾート開発と営業に従事し、現在はCM総合研究所という調査会社でテレビコマーシャルの効果測定の仕事をしております。残念ながら今のところ、仕事を通じての台湾との縁はないのです

が、いずれはエンターテインメントを通じて日本と台湾の更なる友好関係構築に貢献したいと思っております。

以上



台湾の犬

橋本紀明(昭和五四年・政経卒)

今はもう変わったと思いますが、私が駐在した九〇年代後半は、街にたくさん犬がうろついていた。自由気ままに動きまわるからといって野良犬でもなく、かといって可愛がられている様子もなく、人間達にわずらわされることなく独立独歩で毎日生きているようでした。台湾は狂犬病がないので、恐れられることもなく、犬たちは勝手に食事をして、人間様を恐れないで一日を過ごすという

うらやましい生活でした。

しかし、工場地帯に倉庫を探しに行つた時のこと。私がこのオーナーよりも先に倉庫の中に入ったら、中にいたボクサー犬と目が合いました。私を見つめるやいなや、ものすごいスピードで吠えながらこちらに走ってきます。台湾の犬は怖くないという幻想を抱いた私でも、子供の頃近所の犬にお尻を噛まれたという嫌な思い出が一瞬、頭をよぎり一目散に逃げました。幸い襲われる寸前にオーナーの一声で事なきを得ましたが本当に恐怖でした。なぜおとなしいはずの犬が襲ってきたのだらうと考えました。

出した結論は、台湾では犬は手間のかからないものとして飼うので人間に吠えないし、当然性格も穏やかになる。しかし番犬として飼われた犬は台湾であつても別。結局地域性ではなく、飼われる目的で犬も変わるのだと自分なりに答を出しました。台北市内で有名な違法建築ビルの下を歩いた時も数頭の犬に吠えられました。しかしその頃には吠える犬から逃げたらダメという自分なりの対処法をあまり出していませんので、この時はズボンのベルトを手にとつて振り回しながら『このやろう』とばかりに犬たちに向かっていきましました。

台湾では、日本と違って車にひかれる犬が少ないことも私には不思議でした。駐在した頃の頃、信号が青になるやいなや先頭切つて横断歩道を渡り、道路半分くらいのところまで行つた時、目の前を小型トラックが横切りました。幸い家内が私を止めたので事なきを得ましたが、

その経験でそれ以降私は横断歩道では必ず他の人の後を歩くようにしました。会社のビルの一階通路に犬がいつも一、二頭寝そべっていました。ある時私が道路を渡ろうと信号を待っていると、その犬も私の横でちゃんと信号を待っているではありませんか。そして渡る時も決して先頭を歩かず人の後を歩くのでした。日本の犬はいつもつながれているので綱を放たれると喜んで走り回り、注意不足で車にひかれる。台湾の犬はいつも自由だから落ち着いて行動できる。人間並みの知恵をもつた台湾の犬はすごいなあと思いました。

駐在した頃の頃、家の近くにいた、小さい頃は白くて可愛かっただろうなと思わせる灰色に変色したブルドッグも観察の対象でした。私達夫婦はいつも『モップ、モップ』と呼んで毎日その動向に注意を払っていました。このように個性豊かな犬たちは、私たちの台湾ライフを非常に楽しくしてくれました。あれから一〇年。犬はどうなったか。



蔡英文・民進党元主席講演会

「目前の台湾情勢と日台関係」

台湾最大野党・民進党の蔡英文・党主席が三月一五日から一七日まで日本を訪問、初日にアルカディア市ケ谷にて講演を行ったので出席した。本講演会は在日台湾同郷会(何康夫会長)が招聘し、在日台湾婦女会、日本李登輝友の会などが協賛したもの。参加費は千円だった。

六階・霧島の間はほぼ埋め尽くされ、台湾から同行の立法委員らの紹介の後、日本語で「こんばんは、蔡英文です」の挨拶から講演が始まった。続いて台湾語で、台湾大学で日本語を勉強したもののあまり上手にならず父親をがっかりさせたこと(英文ですから英語は流暢)、米国コーネル大学やロンドンLSEで学んだことなどを披露、会場を沸かせた。講演自体は中国語を用いた。以下要旨。(理解できなかった箇所は推測です。)

民進党は二〇〇〇年からの政権時代に、台湾は主権を有し台湾の前途は住民三三〇〇万人が決める、というコンセンサスを作り上げたが、馬英九政権はそれを曖昧にしてしまった。

民進党は大陸経済を台湾経済の(選択肢の)一部であると捉えているが、国民党は台湾経済が大陸経済の一部であると考えている。民進党時代に台湾経済の基礎を作ったので、現在の金融危機にもそれほど大きな影響を受けずに済んでいる。民進党は分裂しておらず、二〇一二年には必ず政権を取り戻す。

「愛台十二建設」は特に評価できるほどのものではない。

日台関係については、日台共通の価値観として民主、人権、安全保障の三点を挙げ、日本に対し、①台湾とのFTA(自由貿易協定)の推進、②アジアにおける経済統合に台湾が加わることへの支持、③安全保障をめぐる日本との協力体制の構築の実現を求めた。

質疑応答では、国名変更、独立や憲法改正については、住民三三〇〇万人の支持がなければならぬ、陳水扁氏については、司法で裁いていると答えた。

またジャーナリスト・宮崎正弘氏からの質問「尖閣諸島の帰属問題」に対しては、政治ばかりでなく国際法の側面もあり、国際公法的には台湾の領土であると証明できると言う学者がいると答え、結果的には従来の尖閣は台湾領という政府見解を踏襲した。

さて、民進党は二〇一二年に復権するだろうか。蔡主席の目論むように、台湾住民三三〇〇万人はアイデンティティを得て、同じ夢を見るのだろうか。

日本人としては、台湾人の選択がどこにあるのか、それは我々の思いとベクトルが合うのか、よく見守る必要がある。(文責：齋藤 晃)

日台稲門会の活動より

DVD上映会 & 懇親会

三月七日土曜日、母校二六号館・大隈記念タワー一六階の校友サロン内会議室

にて、当会行事『海角七号』DVD上映会』が行われた。二五名が膝を揃えとやや窮屈であったが、幹事長の挨拶の後予定通り四時上映開始、五〇時以上はあろうかと思われる大型ディスプレイ上に映し出された『海角七号』は約一四〇分余の長さを感じさせない感動作であった。



六時三〇分終映後、涙を拭く暇も有らばこそ、江先生に手配頂いた大隈会館一階の教職員専用レストラン「楠亭」に河岸替えし懇親会を開始した。多数会員の挨拶に加え、今回は台湾への留学生・松尾君、台湾からの留学生・詹君(嘗会員の甥御さん)の参加もあり、八時三〇分まで飲み放題を愉しみつつ盛会裡に終了することができた。(齋藤 晃)

リンカンゼミナール

“本物の実力” をお子様に

個別指導進学塾・外国語教室

代表取締役 國方 隆 (昭和38年法学部卒)

TEL 042-767-2881 FAX 042-767-2882



リンカングループ RINKAN GROUP

「海角七号」を観ました

齋藤 晃(昭和五〇年・商卒)

三月七日の当会主催DVD上映会に続き、二九日にアルカディア市ヶ谷で開催された李登輝友の会主催の日本語字幕版上映会にも参加した。ご覧になった会員も多いただろうが、粗筋から説明する。

日本統治時代、敗戦のため内地に引き揚げることになった日本人教師は、駆け落ち覚悟で港までやってきた教え子の台湾人少女・日本名小島友子の前から逃げ去った。彼は、後悔と思慕のあまり引き揚げ船の中で七通のラブレターを書くが、これが台湾に宛て投函されるのは、六〇年の歳月を経た彼の死後のことであった。このエピソードを通奏低音とし、現在の物語が進行する。なお題名「海角七号」はラブレターの宛先、老友子の住む「台湾恒春郡海角七番地」から採っている。

さてその恒春では、日本人歌手・中孝介(日本人教師と二役)の出演するピーチ・コンサートの公演計画が持ち上がった。主人公・阿嘉の継父は、町議会議長という自分の公的立場を利用し、「地元の前座バンドを出演させるべきだ」と主張、阿嘉を中心に楽器ができるという触れ込みの面々が集められ、即席バンドが結成された。このメンバーが一筋縄ではゆかない強烈な個性の持ち主ばかり。

ボーカル・阿嘉は挫折したミュージシャン、ギター・勞馬は逃げた女房を忘れられない直ぐキレル原住民の交通警官

ベース(初めは勞馬の父だったが交通事故故に遭ったため辞退)・馬拉桑は働き者の客家人、ドラム・水蛙は恋多きバイク屋の店員、キーボード・大大は天才小学生、それにステージへの夢を捨てられない人間国宝・茂伯は月琴で参加。そしてこの急造バンドの強気のマネージャー・日本人友子(中国語が話せる、田中千絵。この七人を軸とし、阿嘉の継父と実母、茂伯の孫、馬拉桑を憎からず想うホテルのフロント・美玲、何やら重たい過去を背負う大大の母・明珠(水蛙の同級生)らが絡み、誠に複雑な人間模様が描き出される。会話は殆んどが台湾語(友子が絡むと中国語になるが、阿嘉には「訛っていて、分からん」と評される)。

登場人物はそれぞれ、このバンドのように問題を抱えている。その心の中の鬱屈を癒すのは、恒春という生まれ育った土地とその仲間たちである。阿嘉、勞馬、そして明珠と大大母娘も故あってこの恒春に帰ってきたらしい。そして阿嘉の継父(議長)は家族がバラバラになってもこの恒春を愛し、大切に守っている。

茂伯の弟の孫の結婚式の夜は、数々のエピソードに彩られる。小学生・大大に慰められる勞馬、阿嘉の母と手を繋いで(牽手)歩く議長、酔った馬拉桑を車で送る美玲、そしてすぐ喧嘩し反目し合っていた阿嘉と友子の意外な顛末。

ラストは、練習した二曲を大歓声の中無事に演奏し終えた後のアンコール曲、「野バラ(野玫瑰)」を、阿嘉が歌い、中孝介が歌うシーン。そして七通のラブレ

ターも老友子の許に届く。

この作品に悪人は登場しない。悪そうに見えても理由がある。どこかのんびりして懐かし、まるで古い知り合いの中にいるような錯覚に陥り、魏監督の登場人物一人一人に対する愛情を感じる。

君には解るはず。
君を捨てたのではなく、泣く泣く手放したということ。

日本は台湾を泣く泣く手放した、のか。であれば、この作品は台湾の日本に対する恨みつらみなのか。昨今日本語世代の退潮が進みつつある現在において、このような作品が制作されかつヒット(台湾映画興行成績史上歴代二位を記録)した事実は稀有なことなのか、それとも親日の素地があつてのことなのか私には分からない。ただ馬英九政権が、昨年一月三日から台湾を訪れた中国の兩岸関係協会会長・陳雲林にこの作品を鑑賞させたことも、また事実である。

日本のマスコミは、台湾の日本語世代の退潮とともに、日本に対する関心が薄れているという論調を繰り返しているが、このような作品が空前のヒットを飛ばしているということにもっと関心を払い、この作品を未だに無視してきた理由を含めてきちんと意見を述べるべきである。

それにしても、あのラブレターの台詞は誰が書いたのだろうか。

鈴木歯科クリニック
Suzuki Dental Clinic

東京都豊島区池袋4-25-1
絃亜ビル1F 〒171-0014
Phone 03-5950-8241
Fax 03-5950-8242

歯科医師/歯学博士

鈴木 章 敬

Akiyoshi Suzuki, D.D.S., Ph.D.

タバコ 肥満は歯周病リスクを高めます。

適切な口腔ケア(歯ブラシ・舌ブラシなど)で歯周病は予防できます!
更に、カゼ、インフルエンザの予防になります!

よく噛んで! 歯周病予防と肥満予防!

阿里山・ツォウ残照

エッセイスト 木村 滋
 (昭和二十七年法卒・
 社)全国権太連盟理事・副会長)

台湾中央山地・阿里山の懐深くツォウ族六千人が、民族文化を守りながら、農業と観光で細々と暮らしている。

二〇〇五年二月の統計によれば、台湾全島の原住民総数四十五万六千の一・三%でしかない少数民族ツォウには際立った特質が幾つかある。その一つは風貌である。

高砂族の属するアウストロネシア語族は、太平洋の東はイースター島、西、マダガスカル島、南はニージーランド、インドネシアの広範な地域に分布し、その北限が台湾である。その風貌は押し並べて中頭型、面長、頬骨がはり出し、やゝ突顎(突出た口吻)であるのに対し、ツォウには短頭、丸顔、直顎が多い。つまり白人的顔立ちである。

これには理由がある。千六百六十年、明末、國姓爺・鄭成功は台南のオランダ・ゼーランダー城を攻奪し、降伏した高級軍人・官僚とその家族は船での退去を認められたが、兵士・町民とその家族多数は峡谷を遡江退去し、阿里山麓でツォウ族と遭遇した。ツォウは暖かく迎え入れ族民として名前を与え、

以降三百五十年、混血が進んだ。

最近、といっても年月は定かでないが、オランダ人の一実業家が如上の事実を知りツォウを尋ね、暖かく歓迎された。その時、ツォウの一老嫗を見て「貴女は私の祖母にそっくりだ」と云った伝えられている。

部族の特質の二として一つは平和共存の生き方である。オランダ難民に対し、殺戮、首狩り等せず同化させた。勿論、他部族の侵略に対しては戦士として戦い、取った首を高く柱上に掲げた例はある。が昭和五年発生の霧社事件で蜂起した北方部族のように、男子の勇氣ある通過儀礼としての首狩り風習はなかったと云ってよい。

特質の第三は、異文化受容の能力の高さである。

一例としてガオ一家のように大正時代にピアノ、オルガンを所有し、一族の作曲した曲で家庭コンサートを開いているが、これは日本統治時代の文化的残照かもしれない。

農産物ではワサビがある。溪谷の清冽な水を石垣を積んだワサビ田に引き、生産物を日本の高級料亭に出荷しているという。

(本稿はJ・COMデイスカバリーに多くの示唆を得たことをお断りする)

萬國專利商標事務所

当所は1972年に創立以来、企業団体、大学の学生団体に知的財産権についての教育と指導を続けると共に、特許・商標出願依頼人に対して、電子、電気、半導体、ビジネスモデル、ソフトウェア、化学、医薬品、バイオ、材料、機械、日用品等の各分野における発明・考案・意匠・商標の権利化を始め、知的財産関係の研究、相談など質の高いサービスを提供しております。皆様方の暖かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

所長 陳昭誠 (弁理士・会計士)
 副所長 陳昭明 (2001年アジア研卒)

台湾台北市10044博愛路35号9階
 TEL: 886-2-2381-7099 (代表)
 FAX: 886-2-2331-7068・886-2-2389-1188
 E-MAIL: service@iprlouis.com

WEBSITE: www.iprlouis.com

メンバー: 日本知的財産協会 (Japan Intellectual Property Association, JIPA)

アジア弁理士協会 (Asian Patent Attorney Association, APAA)

国際商標協会 (International Trademark Association, INTA)

国際工業所有権保護協会

(International Association for the Protection of Industrial Property, AIPPI)

世界知的財産代理人連盟

小曾根会員から、秘蔵の作品群を
投稿頂きました。順次ホームページ
でも紹介する予定です。お楽しみに。

懐かしき情景

小曾根將隆 (昭和三八年・一法卒)

手元に一九九六年三月に発行された「台湾稲門会」の名簿がある。当時の組織率は今ほど高くはなかったと思うが、台北に五十三名、高雄に十一名が登録されていた。その名簿に自己紹介の欄があり、小生の項を見ると「台湾の風景や風俗文化を写真にしたい」と思っているが、現実には飲み屋での写真ばかり・・・とある。お恥ずかしい限りだが、その間隙を縫って撮った写真をキャプション付きでアルバムにしてある。その写真を見ると、当時の様々な思い出が蘇ってくる。

はからずもこの度投稿の機会を与えられましたので、今は昔になってしまったあの頃と現在を比べ台湾の変わり方な思いを馳せ、或いは当時を偲ぶ糸口になればと願って、「昔の写真」ですがアップさせていただきます。

一 春節 (台北・行天宮)

午後十一時を過ぎる頃から新年を迎えるために続々と大勢の人々が集ってくる。そして、長い線香を両手で頭の上にかざして拜殿に向かって祈る。香炉の火はそんな人々の気持ちを映すかのように燃え

盛っている。



二 神猪 (大溪)

神に捧げるために一家総出で、口に餌を運び、暑さよけには扇風機で涼を送って、ひたすら肥えさせ、七百キロを越す巨大な豚を育てる。そして正月に、年に一度覇を競い合うお祭が催される。

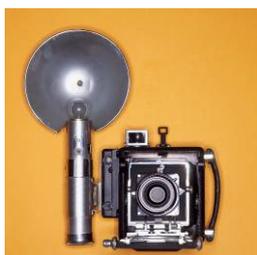
三 中元節の夜 (基隆)

有名な「灯籠流し」に先立って街の到る所で賑やかな催しが繰り広げられる。煌びやかな光の下で、竜が舞い、派手な電飾を纏った山車が列を成し町全体が熱気に包まれる。



四 天后宮 (鹿港)

鹿港は清朝代殷賑を極めたという。天后宮は福建省から迎えた媽祖を台湾で初めて祀った由緒ある廟だとのこと。周囲のくすんだ色と対照的な錦の色が一際鮮やかに見える。



新宿 金美齡さん宅でお花見会

北村友雄 (昭和四四年・法卒)

三月初め、何かの電話のとき「五月二日は日台稲門会の総会ですのでは非出て下さいね」と依頼したところ、金さん「丁度稲門会の依頼で八尾に講演に行くことになっています。」

でも日台稲門会の皆様には、台湾が世話になっていたので恩返しをしなればならないわ。三月終わりから四月の初めにうちで、花見会をするので幹事会の皆様を招待するわ」ということで、日台稲門会のメンバーが恒例の花見会に参加させてもらうことになりました。

四月二日五時過ぎに訪問し、六時過ぎなんと森 安部元首相や石垣岳総務副大臣、山谷えりこ参議院議員、木挽司衆議院議員等有力議員が七、八人、岡崎久彦先生、日本テレビの美人アナ古市幸子さん、文芸春秋社の立林昭彦局長等そうそうたる人たちが集まり、金さん宅に出張して握る美味しい江戸前の寿司、神戸牛、台湾のカラスミを心行くまで堪能しました。

山口県、早稲田、台湾で生きている私には夢のような顔ぶれで大感激です。

長州代表は安部元総理、早稲田代表は森元総理、台湾代表は金美齡さん、台湾を思う日本人代表の石川会長と同席させてもらえ、時局について話をさせてもら

える場面を提供していただいた金美齡さんに心より感謝すると同時に、私の思いよりかなり違う方向にいつている台湾の事が心配で仕方ありません。台湾の若者よ、しっかりしてくれ。



左より井上夫人、金美齡さん、小野間幹事長

渡邊光治大先輩から著作の紹介がありました。お求めの際は渡邊先輩までご連絡願います。残部僅少ですので、お早めに。

私の著作暦

一・「遠き道（でっこの作どん自叙伝）」（註）渡邊光治監修。昭和50年3月5日発行

二・「以德報怨のくにを訪ねて（戦友相親の紀行）」昭和五二年四月二五日発行
三・「嵐の中の男たち（牧山工場闘争記）」昭和六一年一月一日発行

四・「レイテの星よ」とわに（陸軍少佐渡邊竹司の青春）平成七年二月二五日発行

五・「台湾所在重砲兵聯隊史」（編集委員）平成一〇年一月一日発行

六・「凸凹人生珍名譚（抄字と家紋）」平成一四年一月一日発行

七・「お遍路（比島戦城慰霊巡拝記録の總括編）」平成一五年一月一日発行

2009-2月-25日 渡邊光治 以上

母校関連情報

白井克彦・早稲田大学総長が
総統府に馬英九総統を訪問

白井克彦・早稲田大学総長は三月三三日前、総統府に馬英九総統を訪問した。馬総統は「早稲田大学はこれまで数多くの台湾留学生を育成してきた。また六年前には台湾研究所を設立し、多くの台

湾の研究者と密接に往来し、台湾に対し深い研究を行っている」と述べ、早稲田大学の台湾に対する貢献を高く評価した。また馬総統は「就任後台日関係を推進し、今年を『台日特別パートナー関係促進年』と定めたのは、双方の国交がないにもかかわらず、往来が極めて緊密であるからだ。日本は台湾の第三番目の貿易相手国であり、双方の往来客数は昨年二五〇万人に達し、航空機は毎週二五〇便を超えている。日本は台湾の観光客に対してノービザ措置を実施している。今年二月に開催された台日漁業会談では、多くの協議項目における双方の合意が得られた。今後札幌にも弁事処を増設し、青少年ワーキングホリデー協定の締結等の事項について、引き続き努力し、さらに台日関係を促進したい」と述べ、さらなる台日交流促進に期待を示した。

白井総長は、教育方面の交流において改善の余地があるとの考えを述べ、目下早稲田大学と台湾大学の二重学位協力計画を推進していることを明らかにしたうえで、今後さらに多くの大学との協力拡大に意欲を示した。昨年早稲田大学が台北に交流センターを設立し、留学生交流および技術協力を促進していることに関して、「台湾と日本の技術協力の歴史は長きにわたるが、ハイテクの技術移転の数量は多くない」と指摘し、「早稲田大学の台北交流センターを通して技術交流および移転を促進したい」と語った。【総統府2009年3月23日より抄】

早稲田大學六台湾校友會 2009年總會のご案内

十一月二十八日 土曜日 台北・国賓飯店で行われる予定です。奮って参加ください。詳しくは、秋口に発行予定のニュースレターでも紹介します。



会費振り込み口座のお知らせ

会費の振り込みにご協力ください。

銀行名：三井住友銀行(銀行コード0009)
口座店：上大岡支店(電話045-841-3131)
店番：566
口座番号：普通預金 6929095
口座名義：日台稲門会(ニチタイトウモンカイ) 川村淳一(カワムラ ジュンイチ)
※郵便振替口座記号番号：000138-8-698005
加入者名：日台稲門会

台湾関連書籍紹介

片倉 佳史 著

『台湾に生きている「日本」』

(祥伝社新書 九四五円)

片倉 佳史 著
昨年、台湾校友會總會翌日の娯楽活動「桃園神社」観光で、ガイドとしてもお世話になった台湾在住の作家、片倉佳史氏の作品、台湾を味わい尽くす名著である。氏は我々と同学であり、台湾と日本の歴史にスポットをあて続けている。

本書は三部構成となっており、先ず「序私を引きつけた台湾」では台湾の地理、歴史、風土などの概論を、続く「第一部台湾に生きている『日本』を歩く」では台湾に残る日本統治時代の遺構や産業遺産を取り上げつつ、それに関する文化や歴史を詳しく紹介している。「第二部 台湾人と日本人——日本統治時代の絆を訪ねて」では台湾の人々と深い交流を持った日本人のエピソードを伝え、「第三部 台湾の言葉となった日本語」では台湾の言葉の中に残る日本語を「辞典」形式でまとめている。

戦後大陸から逃げてきた中国国民党とその軍隊は台湾を専ら戦利品としてしか見ておらず、また大陸反攻を旗印としていたため新たにインフラを整備する気がなかった。日本人の残した寺社、墓地は見せしめのために破壊し、石碑の文字まで削り取っても、施設・設備はそのまま使用した。お陰というべきか、そのため総督府(現總統府)をはじめとし、日本

時代の主要な建造物はおおかた残った(官公庁、銀行、学校、駅、発電所など)。また日本軍や共産党軍に敗北して台湾に逃げ込み、その屈折した憎悪を台湾人に向ける国民党の手から秘かに守られたものも、八田與一の銅像など多数ある。

この本を読んでいるうち、台湾駐在のことを色々思い出した。日本語世代の多桑たち(彼らもまた若かった)に聞いて、林森北路裏にあると云われていた明石元総督墓所を探したこと(ここは、日本人墓地だったが、戦後外省人によってスラム化したらしい。改葬していないので、遺骨はそのままだった)。また、台中駅は外観も内側も両国駅に似ているという印象があったこと。ただ当時は台湾に魅かっていたので、日本時代の遺構は気にならなかったが、そのままになってしまった。

何よりも感銘するのは、この遺跡を守ってくれている台湾の人々の努力、日本人として感謝したい。巻末の主な参考文献には一度は読んでみたい資料が網羅されている。付録の、「訪ねてみたい歴史建築と遺構100選」も、それぞれ訪台の折に是非訪ねてみたい。日本はこんなにも台湾に力を入れていたのです。(齋藤)

片倉佳史 一九六九年生まれ。早稲田大学教育学部教育学科卒業後、出版社勤務を経てフリーに。九〇年代後半から台湾に居を移し、これまで多数の台湾旅行ガイドブックを手がける。地理、歴史、鉄道、原住民族文化、グルメと、執筆・撮影分野は広く、日本統治時代の遺構や歴史遺産の調査。記録にも心血を注ぐ。

主著に『観光コースでない台湾』『台湾—日本統治時代の歴史遺産を歩く』など。

編集後記

今話題のNHK特番「シリーズJAPANデビュー アジアの二等国」、これは、編集後記としては相応しくなく気が重いテーマだが、やはり言っておきたい。

四月五日夜、番組が始まり暫くして違和感を覚えた。「侵略」、「支配」という表現、これは「割譲」、「統治を言い換えたもの」。また「日台戦争」云々は多分、平成四年岩波書店刊行の、「近代日本と植民地(全八巻)」に拠っているのではないかと考える。同書では、台湾は「台湾植民地戦争」による武力で略取した植民地であるとしている。

「現在の日本国民の多くが過去の植民地支配の責任を日本の歴史の痛みとして感じる」ことなく、その責任の償いに無関心(以下略)

との主張は、NHKの主旨と重なる。また台湾、朝鮮のみならず、北海道、沖縄、千島を内地植民地と主張している。

番組で提供された事実、確かに既に広く膾炙しているものではあるが、NHKはこれらの事実のある側面だけを取り上げ、一定の結論に収斂するべく編集しているように見えた。

だがちよつと待つてほしい。こんな番組が大手を振っているようでは李登輝元総統が築き上げた日台関係はとうなつてしまっただろうか。NHKは一体誰の金で台湾と日本との紐帯を断つ番組を製作しているのか。シルクロード、清海鉄道番組のためののか。そのためなら台湾総督府文書二万六千冊を読み込むことも厭わないのか。

この番組は、第二回「天皇と憲法」、第三回「貿易で立つ国家」、第四回「郡司国家」と続く。我々としては、これからどう展開するか、しっかりと監視する必要があるのではないのか。何れにせよ、ここまで引きずり込んだNHKはエライ。(昭和五十年商卒 齋藤 晃)

WASEDA U 2009

祝・日台稲門会会報第12号発行

| | | | | |
|---|---|---|--|---|
| <p>小野間恒夫 神奈川県茅ヶ崎市南湖五一二五―五 電話・FAX 0467(333)2611</p> |  <p>早稲田大学校友会 日台稲門会 行政書士 稲門会 大嶋 武 〒352-0021 埼玉県新座市あたご三二―一 TEL 0486(477)3374 FAX 0486(477)3374 携帯 090(8000)3304</p> | <p>早稲田大学 臺灣研究所 講師 岩永康久 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町五二二 早稲田念正研究開発センター1201号館 401号室 電話 03(5262)9162 内線30010</p> | <p>早稲田大学校友会 日台稲門会 顧問 井村晃也 東京都小金井市貴井南町五一二―一</p> | <p>日台稲門会 一色 徹 神奈川県藤沢市鶴沼桜が岡三二―三二―一 E-mail: issiki36@com.home.ne.jp</p> |
| <p>社団法人全国權大連誼理事・財産管理委員長 エグゼクティブ 木村 滋 東京都世田谷区松原二二二九―一六 古河松原マンション604 電話・FAX 03(3331)7694</p> | <p>日本ホース金具工業会 常務理事 北村友雄 〒105-0004 東京都港区新橋六―一―一三 〇〇キビル二階 TEL 03(3463-6)3331 FAX 03(3463-6)3331 E-mail: jhca@aurora.on.ne.jp http://www.jhca.gr.jp/</p> | <p>日台稲門会幹事 神田 正治 E-mail: kanda0386@star.on.ne.jp</p> | <p>ミヤニー証券取引センター株式会社 川村 淳一 E-mail: kawamura.nsec@nptnail.com.mm</p> | <p>加藤 博 東京都小金井市貴井南町五一四―一〇 電話 042(3336)3573</p> |
| <p>白鳥 和夫 神奈川県茅ヶ崎市浜須賀二〇一五―二 電話 0467(333)93334</p> | <p>日台稲門会・稲門乗馬会 齋藤 晃 東京都新宿区新宿六一二五―一五 E-mail: akira_sj@hotmail.com</p> | <p>早稲田大学 商議員 横浜校友会顧問 近藤 良三郎 〒222-0037 横浜市港北区大倉山五七―一―五三〇 電話 FAX 045(644)71333</p> | <p>早稲田大学 台湾研究所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町五二二 早稲田念正研究開発センター1201号館 401号室 電話 03(5262)9162(内線30010) FAX 03(5262)30000 E-mail: xdtiang@waseda.jp</p> | <p>輿石 邦豊 〒152-0002 東京都目黒区目黒本町二一九―一七 TEL FAX 03(34710)1999 携帯 080(1167)47401 E-mail: kn.koshishi@wing.on.ne.jp</p> |
| <p>渡邊 光治 千葉県市川市福栄四一七―七 電話 047(339)2169</p> | <p>早稲田大学校友会 日台稲門会 渡邊 光治</p> | <p>華隆機器工機有限公司 董事長 廖 朝 欽 廠址 台中市豊原市圓環北路一段三五九號 電話 04(222)33333</p> | <p>真鍋藤止税理士事務所 高座日台交流の会副会長 日台稲門会監査役 真鍋 藤 正 神奈川県大和市中央五―十二―五 電話 046(264)3050</p> | <p>田村雅司 (昭三十八政経卒) 東京都中野区若宮三二―一七 電話 03(33333)73333</p> |